



▲ホタルとホタルを見に来てくれる人のため、いつも川をきれいに



▲自然に近い護岸に改修した清谷川を舞うホタル  
地域では、鑑賞しやすいように灯りを消すなどおもてなしに取り組んでいます

### 地域の話

## 衣笠校区(藤七原町内会)

### 清谷川にホタルの舞う夢を追って

昔ながらの自然環境を取り戻す活動を続けている衣笠校区から、藤七原地区のゲンジボタル保護・育成活動についてお便りが届きました。



「うわあ、きれいな……」

舞い上がるゲンジボタルの幻想的な光の乱舞に、湧き上がる感嘆の声。

ホタル鑑賞の名所、藤七原地区を流れる清谷川でこのような光景が見られるまでには、ホタル復活の夢に向けて、多大な苦労と長い時間を費やした、多くの人の熱い思いがありました。  
**豪雨に流された9年間の苦労**

平成元年、水質悪化によって激減してしまったホタルを復活させるため、行政から手助けを依頼された、伊藤三也さん(当時の田原町文化財保護審議会委員)が、毎夜探し回ってやっと見つけた、3匹のゲンジボタルの幼虫から活動が始まりました。

それから毎年、ゲンジボタルの幼虫と、そのエサとなる巻貝「カワニナ」



を採集し、人工飼育・放流を繰り返して行う伊藤さんの活動に触発されて、地域住民の環境美化・ホタル育成活動に対する意識も高まってきました。

市内の社会奉仕団体による、保育園や小学校への人工飼育用具寄贈などの支援をきっかけに、児童・園児のホタルの育成を通じた環境学習が始まり、さらに、地域住民による河川清掃と取り組みが広がってきました。

長年の努力が実を結び、一晩に200匹以上のホタルが見られるようになった平成9年、集中豪雨により、放流した幼虫も豊富に採集できたカワニナも、全て海に流されてしまいました。

### 夢がかなった夜

豪雨の翌年、わずかに舞った4匹のホタルからの再出発でしたが、藤七原

地区の農業集落排水接続や、洗剤・農薬を絶対に川の水に触れさせないという地域一丸となった河川浄化の取り組み、さらに、地域の環境は地域で守ろうと発足した「せせらぎの会」によるホタルの保護・河川美化活動などによって、ホタルは年々増えていきました。



そして平成13年、一晩に1000匹を超えるゲンジボタルの乱舞が見られました。ついに、清谷川でホタルが乱舞する夢が叶ったのです。

### 言葉には出さないけれど

現在、藤七原地区では5月下旬になると、自然発生する3000匹ものゲンジボタルの乱舞が見られます。

地区住民は、当たり前のようにホタルに優しい環境を保つよう心掛けます。出欠なんか取らなくても、河川清掃や草刈作業に来られる人はみんな集まってくれます。それは、言葉には出さないけれども、地区住民にとってもゲンジボタルが『自慢』だからです。

地域で育んできた自慢のゲンジボタルの乱舞を、ぜひ見に来てください。